

災害廃棄物処理計画の策定について

環境省作成モデル事業の活用

平成30年11月20日(火)・21日(水)
中部ブロック災害廃棄物対策セミナー

長野県安曇野市 市民生活部廃棄物対策課

本市の紹介(1)

安曇野市へのアクセス (広域図)



◆平成17年10月1日、旧南安曇郡下5つの町村が新設合併して誕生

◆長野県のほぼ中央部に位置し、西側に北アルプス連峰がそびえ立つ、中部山岳国立公園の山岳地帯。燕岳、大天井岳、常念岳など標高3,000メートル級の山々が連なる。

◆北アルプスを水源とする梓川、高瀬川などが、犀川（千曲川の上流）に合流する東部に「安曇野」と呼ばれる標高500から700メートルの概ね平坦な複合扇状地である。

◆人口 97,814人 (2018年11月1日現在)

◆世帯数 39,685世帯

◆面積 331.78平方キロメートル

◆米の収穫量 約19,300トン

◆製造品出荷額 約4,000億円



本市の紹介(2)

特産物



朝が好きにならな

安曇野



朝が好きになる街
安曇野

豊富な湧き水

湧水量
70万t/日

名水百選

「安曇野わさび田湧水群」





1 計画策定の目的

- (1) 大規模災害が発生した際の適正かつ迅速な処理体制の確保
- (2) 災害廃棄物処理の経験がないことによるリスクへの対応・防災・減災

2 モデル事業への参加理由

- (1) 具体性かつ実効性の高い処理計画の策定
- (2) 自区内に焼却灰等の最終処分場を有しないこと

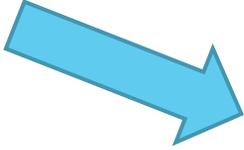
穂高広域施設組合 新ごみ処理施設 完成予想図 (平成33年3月供用開始)



朝が好きになる街

安曇野

3 策定のポイントー1

- (1) まず、何をやるべきか。  基礎データの収集、多ければ多いほど
 他自治体の策定事例参照
- (2) 計画は将来にわたって、改訂していくもの。データの形骸化、陳腐化
- (3) 最大のポイントは、仮置場の候補地の選定  公表か未公表か
- (4) 地域防災計画（県・市）との整合  使用データの整合、妥当性
- (5) 地域・市民・関係機関等への説明根拠  推計値の根拠、計算式
- (6) 具体性・実効性の高いものとなり得るために  高い精度の追求



3 策定のポイントー2

(7) 災害廃棄物処理計画の構成例

ア **時系列**をベースにした構成 → 災害廃棄物対策指針（環境省）

平常時（災害予防）・初動時（応急対応）・復旧復興時の区分で整理

イ **災害の規模**に応じた構成 → 策定各自治体

市町村が主体となって処理する場合、県が主体となって処理する場合

ウ **重要な項目**による構成 → 策定各自治体（当市）

計画の概要、組織体制、災害廃棄物の処理、仮置場、選別フローなど



(8) 当市の進行スケジュール

H29.5 モデル事業採択

H29.8 モデル事業第1回意見交換会

数
回
繰
り
返
し
実
施

計画策定のための関係部署との内部調整会議（危機管理課、下水道課等）

全庁政策会議、議会説明、理事者説明、穂高クリーンセンター等との協議など

データ渡し・コンサルタント事業者との打ち合わせ会議、内容校正

H29.12～H30.1 パブリックコメントの募集、意見聴取、回答、議会報告

H30.2 モデル事業第2回意見交換会

H30.3 成果品完成



北信 人前結婚式で笑顔演出
 中信 安全な登山考える講座
 南信 恵那山の成り立ち学ぶ
 ぶらしん 同じ夢見て親子で主将
 地域ニュース22-25面

2010 (平成22) 年

7月17日
 火曜日



J2 松本山雅 0-0 岡山
 御嶽海17面、信州サッカー19・25面

立科町で披露された「野菜蔓茶室」。大きなテーブルに野菜を盛り付け、会場からは感嘆の声。22面

自治体の計画策定進まず

ごみ量 近年最大規模か



岡山市倉敷市真備町地区の道路沿いに並べられた災害ごみ。16日午後0時27分

今回の災害ごみの量は数十万、100万ト近くになるとの見方もあり、近年の豪雨災害では最大規模になる見通し。

計画は災害ごみの処理方針を定めた「災害廃棄物処理計画」。自治体が仮置き場の候補地を決め、ごみの収集運搬方法などを盛り込む。仮置き場の確保などに手間取り処理が遅れる生活再建の遅れにつながるため、同省が全国の自治体に早期の策定を要請して

広島県の呉市や熊野町など

西日本豪雨の被災地で、自治体
 が災害ごみの処理計画を作っていないため、仮置き場の選定などごみ処理を巡り初動が遅れたケースがあることが16日、分かった。全

西日本豪雨

災害ごみ処理初動遅れ

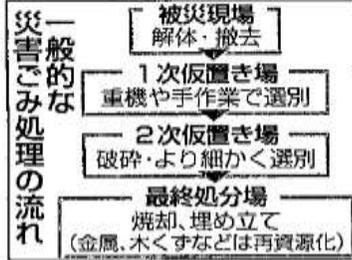
国の市区町村のうち処理計画策定済みの自治体は昨年3月時点で24%に留まっていることも環境省の調査で判明。政府は今年6月、2025年度の策定率を60%に引き上げる目標を盛り込んだ基本計画を閣議決定したばかりで、前倒しの実施も求められそうだ。

【関連記事5・27面に】

も未策定で、呉市の担当者は「計画があればもっとスムーズ



善光寺で参拝する天台宗信越教の僧侶たち



情報当局者の話などを基に平



1873年(明治6年)創刊
 発行所
 信濃毎日新聞社
 長野本社 〒380-8546
 長野市南興町 657番地
 電話(026)
 受付236-3000編集236-3111
 販売236-3310広告236-3333
 松本本社 〒390-8585
 松本市中央 2丁目20番2号
 電話(0263)
 代表32-1200 報道32-2830
 販売32-2850 広告32-2860
 ©信濃毎日新聞社 2018年



高沢産業



朝が好きななる街
 安曇野

4 計画の概要

第1章 **総則**・・・計画策定の目的、基本的事項

第2章 **災害廃棄物処理のための体制等**・・・組織体制・指揮系統、情報収集・連絡、協力・支援体制、住民の啓発・広報

第3章 **災害廃棄物の処理**・・・一般廃棄物処理施設、し尿及び生活ごみ・避難所ごみの処理、災害廃棄物（生活ごみ・避難所ごみ・し尿を除く）、環境保全対策・環境モニタリング・火災防止、処理業務の進捗管理

第4章 **災害廃棄物対策の推進・計画の進捗管理、資料編**



5 対象とする災害

(1) **地震災害**・・・糸魚川ー静岡構造線断層帯による地震全体とする。

最大震度 7、最大避難者数24,660人

建物被害棟数 全壊・焼失5,070棟 半壊8,630棟

(2) **水 害**・・・国土交通省の最大規模降雨に伴う犀川の浸水想定結果と

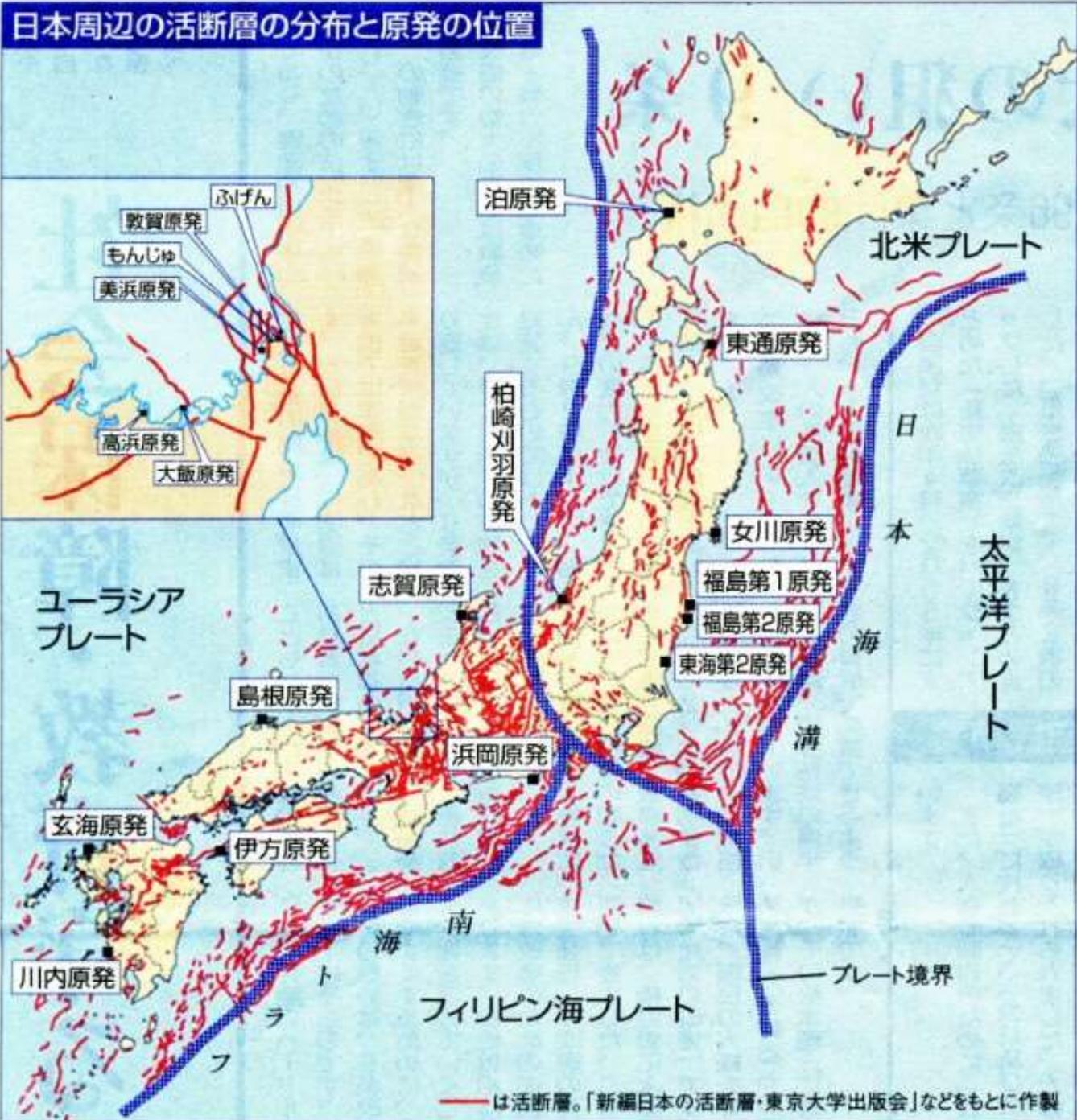
長野県の計画規模降雨に伴う穂高川、高瀬川、万水川、

黒沢川、乳川の浸水想定結果とする。

(3) **その他自然災害**



日本周辺の活断層の分布と原発の位置





朝が好きになる街
安曇野

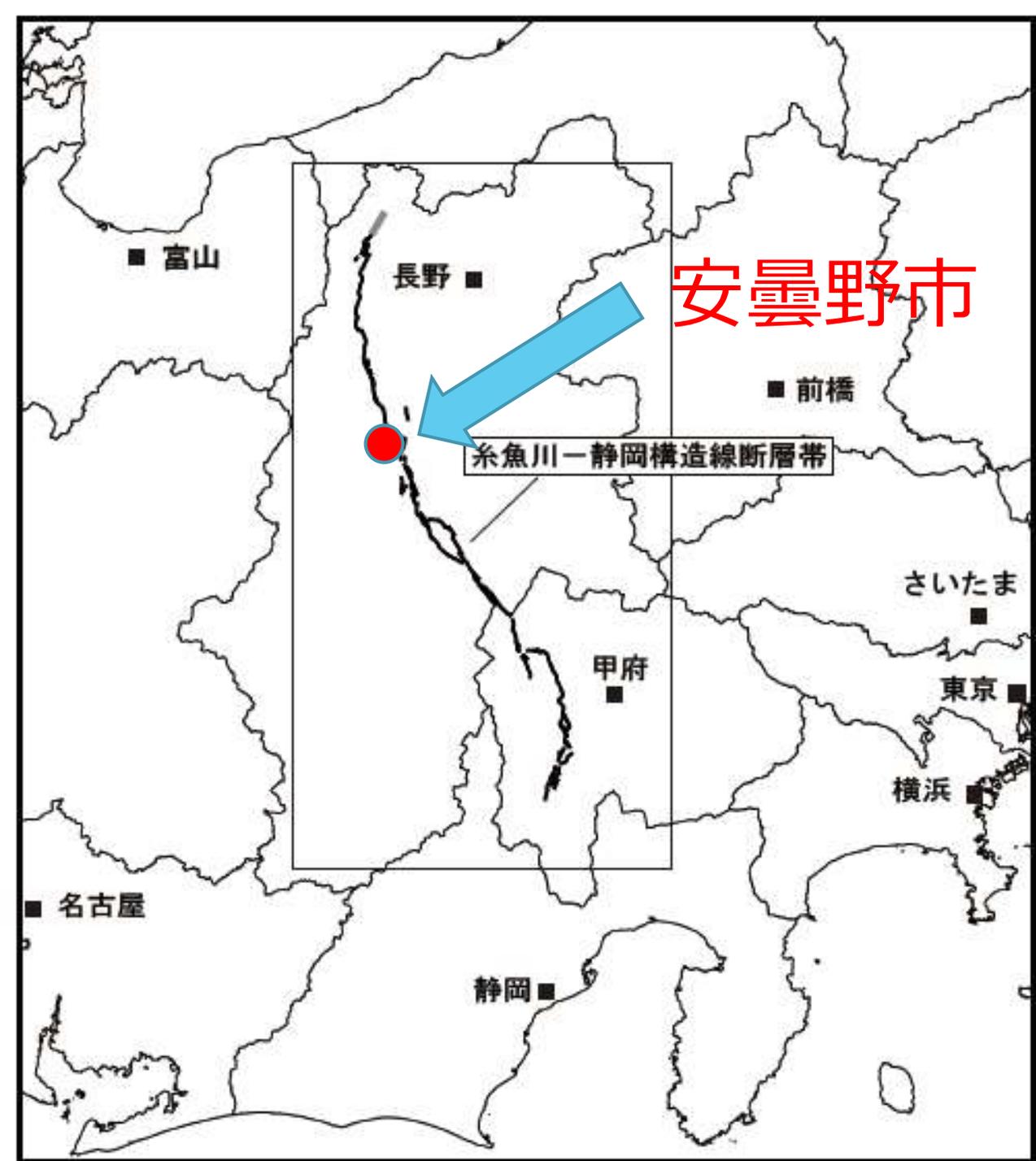
安曇野市

系魚川-静岡構造線



朝が好きになる街

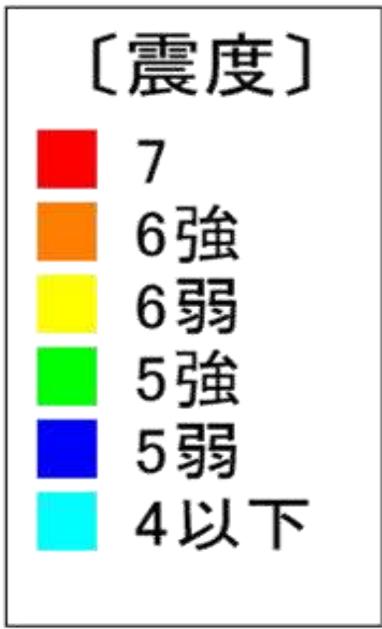
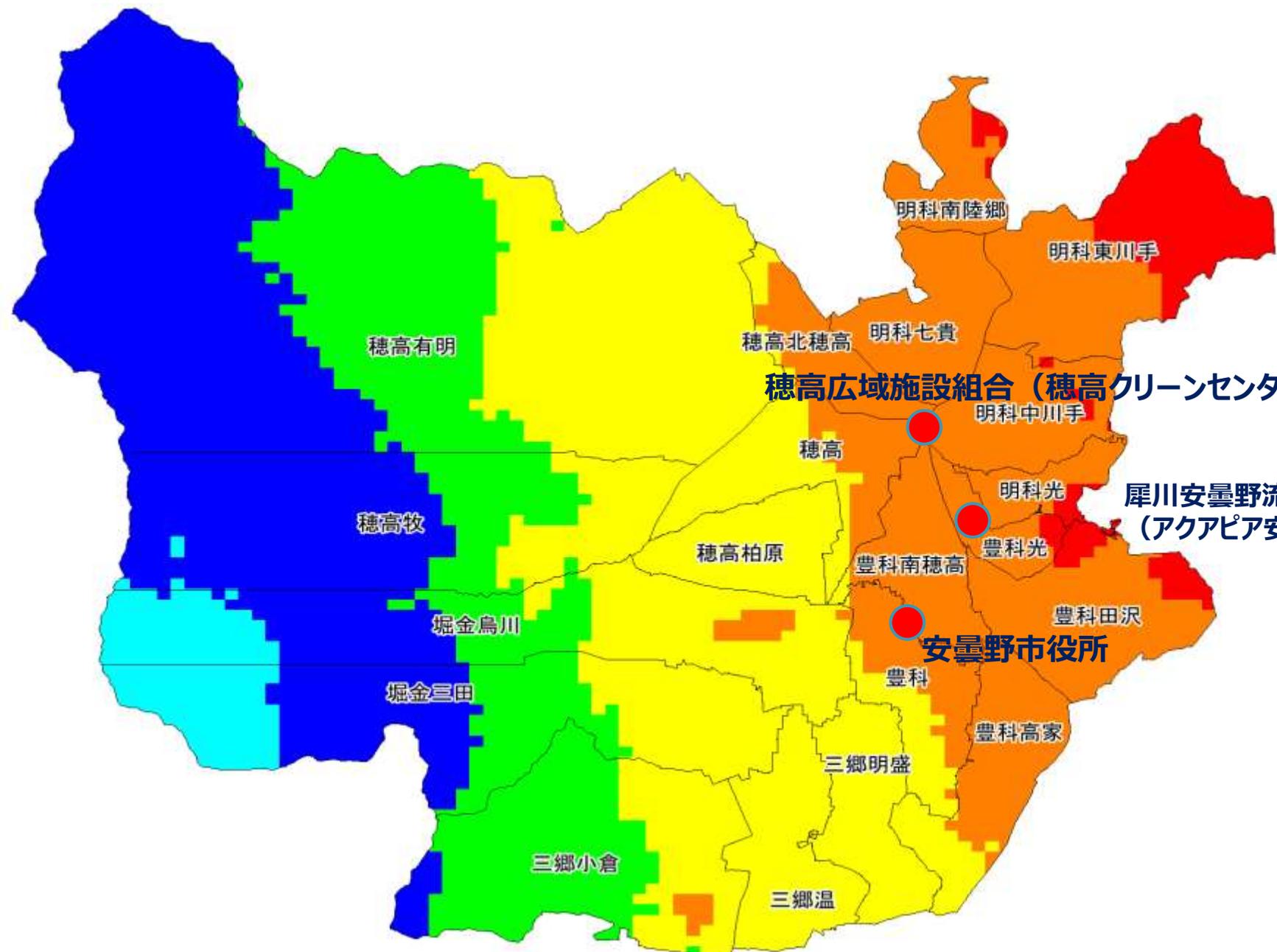
安曇野



安曇野市

糸魚川-静岡構造線断層帯

【糸魚川—静岡構造線断層帯の地震（全体）】



犀川安曇野流域下水道事務所
(アクアピア安曇野) 終末処理場

穂高広域施設組合 (穂高クリーンセンター)

安曇野市役所

6 基本方針

- (1) **適正かつ円滑・迅速な処理の実行**・・・腐敗性・有害性・危険性のある廃棄物を優先して処理し、復旧・復興の妨げにならないようにする。
- (2) **分別・再生処理**・・・可能な限り再生利用し、最終処分量を削減する。
- (3) **目標期間内での処理の実施**・・・できる限り管内の処理施設で行うが、膨大な量が発生した場合は、県内・県外への広域処理を行う。
- (4) **合理的かつ経済的な処理**・・・緊急性・困難性を考慮し、合理性のある処理を選択して経済的な処理に努める。



(5) 時期区分と特長

時期区分	時期区分の特徴	時間の目安
初動期	人命救助が優先される時期（体制整備、被害状況の確認、必要な資機材の確保を行う）	発災後数日間
応急対応（前半）	避難所生活が本格化する時期（主に優先的な処理が必要な災害廃棄物进行处理する時期）	～3週間程度
応急対応（後半）	人や物の流れが回復する時期（災害廃棄物の本格的な処理に向けた準備を行う時期）	～3カ月程度
復旧・復興	避難所生活が終了する時期（一般廃棄物処理の通常業務化が進み、災害廃棄物の本格的な処理の期間）	～3年程度



7 組織体制

市民生活部 廃棄物対策班 (廃棄物対策課・環境課)

総務担当

連絡調整、市民等への周知
契約事務、補助金申請等

ごみ処理担当

生活ごみ、避難所ごみの処理運搬車
両や処理施設の確保等請等

し尿処理担当

し尿の処理、運搬車両や処理施設の
確保等

災害廃棄物担当

発生量の推計、仮置場の運営、災害
廃棄物の処理等

地域防災計画 総務部危機管理課

都市建設部・上下水道部

総務部
財政部

穂高広域
施設組合・
犀川安曇野
流域下水道
事務所



8 対象とする廃棄物

- (1) **地震災害、水害等**によって発生する**廃棄物（災害廃棄物）** 及び
被災者や避難者の生活に伴い発生する**廃棄物（生活ごみ・避難
所ごみ・し尿）**
- (2) **倒壊を免れた家屋**の片付けにより排出される**廃棄物（粗大ごみ等）**
- (3) **家屋の解体**によって発生する**廃棄物**
- (4) **避難所**から排出される非常食の**容器等、簡易トイレ等**
- (5) 停電・断水家庭、非水洗区外**家庭及び避難所外**避難者の**仮設トイレ**



9 災害廃棄物の推計量

(1) 地震・・・約38万8千トン

木くず10万2千トン、コンクリートがら14万2千2百トン、
金属くず9千4百トン、その他（残材）13万4千4百トン

(2) 生活ごみ量（最大時）・・・避難所：約6.1 t /日 <被災2日目12,330人>

(3) し尿排出量（最大時）・・・避難所：約16KL/日 <仮設トイレ206基>

避難所外：約59KL/日 <仮設トイレ485基>

(4) 水害・・・約3万7千トン





が大多数で、近年は高級品の生産に力を入れている。JAえひめ南「玉津共選」の山本計夫共選長(65)は「ブランド

畑の目視調査が困難なことから、玉津共選は小型無人機ドローンを使った空撮調査を始めた。まずは被害の全容を

で住民らが片付けに追われていた。本棚、冷蔵庫、土砂にまみれた畳…。行政の処理が間に合わず、国道沿いに積み上げられたままの場所もある。砂ぼこりが舞い、悪臭が漂う。

用

。ミカ
びは、
がむき
せんと
国道に
未熟な
「カン
「ッコ
た。

猛暑・悪臭 ごみとの闘い



浸水被害のあった地域で片付けをする被災者
16日、岡山県倉敷市

最高気温が今年最高の36.1度となった岡山県倉敷市。「家具を家から出しても置く場所がない。市に収集を頼んでいるが来ない」。同市真備町地区の農業中尾優さん(64)は午前5時から、自宅で長男とごみの撤去作業を始めた。「生ごみもたまる一方で、臭いがきつい」と疲れた様子で汗をぬぐった。真備町地区の農業田部勝さん(78)は「1週間片付けているが終わりが見えない」と語った。

国道486号沿いには、がれきやごみが500斤以上にわたり積み上がり、一部は車線にもあふれ出していた。製菓業塩見修一さん(39)は「一時は道に置かれたごみのため、自宅から車で出られないほどだった。みんな同じ状況

終わり見えぬ 住民疲労

「運んでも運んでも、終わりが見えない」。西日本豪雨の被災地では、3連休の最終日を迎えた16日も、猛暑の中

したりする訓練も行った。北鯖石コミュニティ振興協議会の間島みよ子主事(67)は「震災時は、安否確認の手

ストは月、白井前理事長から東京医科大学を文科省の「私立大学研究ブランディング事業」の対象に交えるよう取り計って

息子を合格させてもらった疑いがある。東京医科大は17年度の対象に交えられ、助成金を受給し

10 災害廃棄物の処理ー 1

(1) **収集運搬**・・・災害廃棄物により生活環境に支障が生じないように

発災後は速やかに収集運搬体制を確保しなければならない。

ア 収集運搬能力や交通事情を踏まえ、仮置場へ搬入する方法を決定する。

イ 仮置場へ搬入することができる被災者は自ら搬入し、できない被災者については、必要に応じて市が仮置場へ搬入する。



10 災害廃棄物の処理ー 2

(2) **仮置場の設置**・・・一時的に災害廃棄物を集積する場所

ア 管内、県内外の既存施設を最大限活用しても目標期間内に処理できない場合は、仮置場内に仮設処理施設を設置する。

イ 地震災害の最大被害想定により推計した災害廃棄物発生量を基に、仮置場の必要面積を推計すると**約 9 ヘクタール**。

仮置場の必要面積の推計は、廃棄物を積み上げる高さによって変わる。

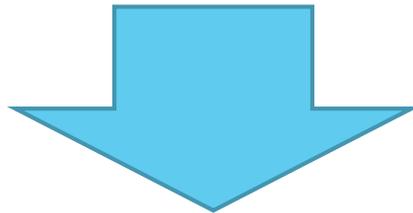


10 災害廃棄物の処理ー 3

ウ 仮置場内では、車両の誘導、災害廃棄物の荷下ろしの補助や、
分別作業を行う。

エ 常時複数人が作業に当たることができる体制とする。

オ 安曇野市が行っている災害廃棄物仮置場候補地選定要件（抜粋）
のポイント



10 災害廃棄物の処理ー 3 (つづき)

I 仮置場の目的と必要機能

- (a) 目的；仮置場は被災建物や廃棄物の速やかな解体・撤去、処理・処分を行うために設置する。
- (b) 機能；処理（リユース・リサイクルを含む。）前に、仮置場等にある災害廃棄物を一定期間、分別・保管しておく。
一部、破碎処理や機械選別まで行うことも想定する。
- (c) これまでの大規模災害の事例では、復興の関係から1年程度で全ての対象廃棄物を集め、3年程度で全ての処理を終えることを想定している。

II 仮置場選定にあたっての留意事項等

- (a) 公有地、平坦、道路幅員、交通、周辺住民・環境への影響、防火・消火用水、散水、電力などが、確保できるところを抽出する。



- (b) 仮置場整備に必要な面積（概ね2,000m²以上）を確保できるなどの物理的条件から立地候補地を抽出する。
面積のほか、地形、地盤、形状及び現状の土地利用等にも配慮する。
- (c) 公園、グラウンド、廃棄物処理施設等の公有地（市有地、県有地、国有地等）の利用を基本とするが、公有地を確保できない場合は、私有地も検討する。
- (d) 二次災害や環境、地域の基幹産業への影響が小さい地域を選定する。
- (e) 応急仮設住宅など、他の土地利用のニーズの有無を考慮する。
- (f) 空地等は災害時に自衛隊の野営場や避難所・応急仮設住宅等に優先的に利用されることが多くなることを考慮する必要がある。
- (g) 他部局との利用調整を図った上で選定作業を行う。（輸送路の確保）



- (h) 災害廃棄物の発生状況と効率的な搬入ルート、アクセス道路の幅員、処理施設等への効率的な搬出ルートを想定、考慮する。
- (i) 発生した災害廃棄物を住民が自ら持ち込む場合もあるため、できる限り被災者の生活場所に近い所に設定する。
- (j) 仮置場の候補地については、可能であれば土壌汚染の有無等を事前に把握する。特に、私有地の場合、二次汚染防止対策と原状復帰時での汚染確認方法を事前に作成し、地権者や住民に提案する。
- (k) 被災者が避難所生活中の場合においても、被災家屋の片付けを行うことが考えられることから、速やかに設置する必要がある。
- (l) 住民やボランティアによる持ち込みがなされることから、仮置場の場所や分別方法については、災害初動時に周知する必要がある。

(m) 機械選別を行う仮置場では、広い用地が求められるとともに、災害廃棄物を集積して処理することを踏まえ、その位置を考慮して設定する。

- ① 木材・生木等が大量の場合は、搬出又は減容化のため、木質系対応の破砕機や仮設焼却炉の設置を検討する。
- ② がれき類等の災害廃棄物が大量の場合、コンクリート系の破砕機の設置を検討する。
- ③ PCB 及びアスベスト、その他の有害・危険物の分別や管理には注意する。
- ④ 仮置場の災害廃棄物の種類や量は時間経過とともに変動するため、時間経過を考慮した設計を行う必要がある。
- ⑤ フェンスは出入口を限定する効果により不法投棄を防止することに加え、周辺への騒音・振動等の環境影響の防止や目隠しの効果が期待できる。



10 災害廃棄物の処理ー4

(3) 災害廃棄物の処理方法・・・災害廃棄物の処理は、環境負荷の低減や資源の有効利用の観点から、可能な限りリサイクルを進め、焼却処理量及び最終処分量の削減に努める。

ア 被災現場で分別し、仮置場で集積・保管する。

イ 種類や性状に応じて破碎・選別・焼却等の中間処理を行い、再生利用、最終処分を行う。

ウ できる限り穂高グリーンセンター（穂高広域施設組合）で処分を行う。

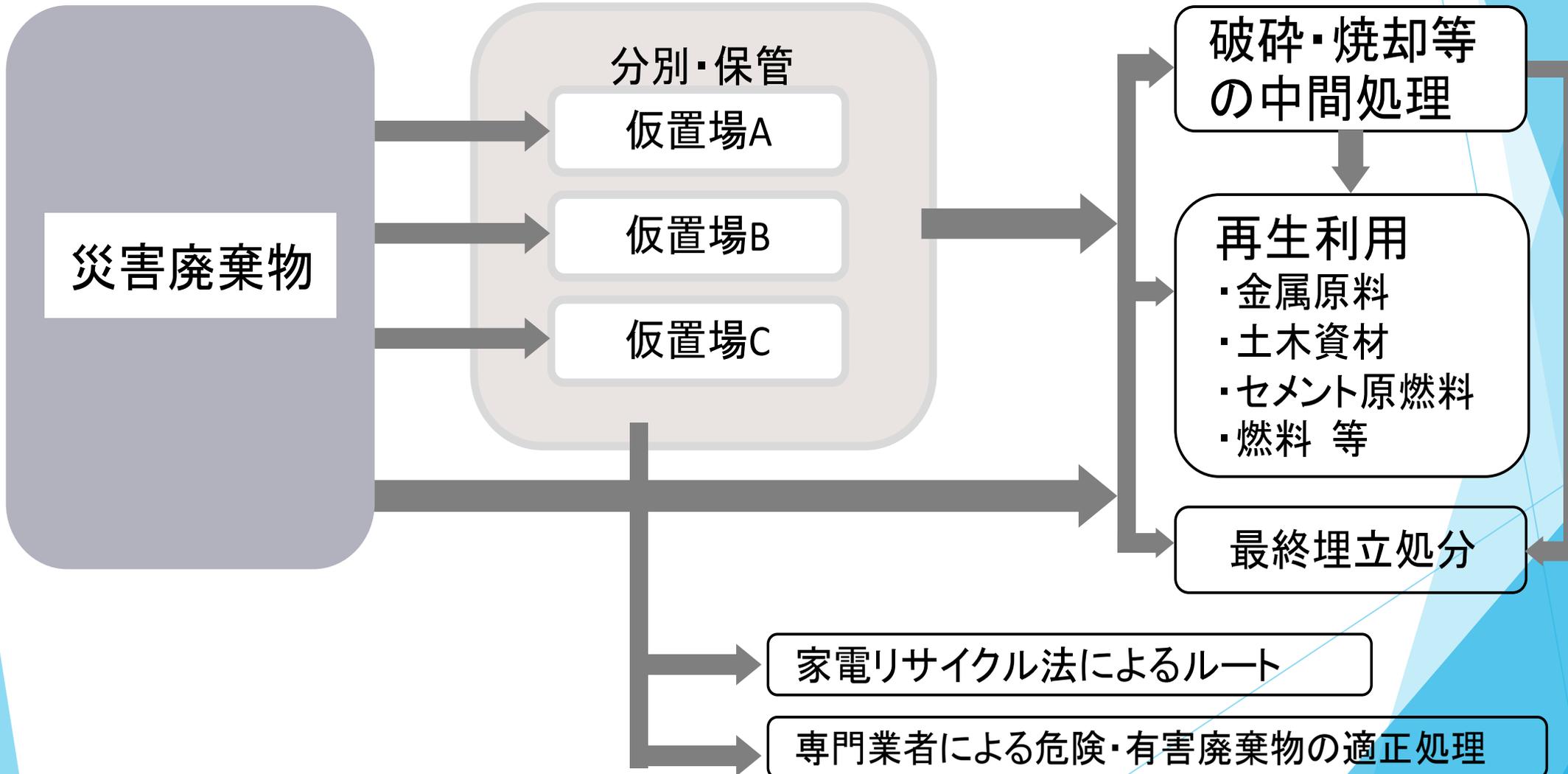


災害廃棄物処理の流れ（つづき）

被災現場

仮置場

処理・処分



10 災害廃棄物の処理ー5

- エ 穂高クリーンセンターで対応できない場合は、県内市町村、民間事業者等の支援により、既存処理施設による県内処理を進める。
- オ 思い出の品を確認した場合は、市が保管し、可能な限り持ち主に返却する。その際、個人情報が含まれていることに留意し、保管する。
- カ 貴重品は、警察へ届ける。



10 災害廃棄物の処理—6 仮置場での分別指導



朝が好きになる街
安曇野



仮置場案内図の設置



分別品目ごとの看板を設置



危険物等を分別保管



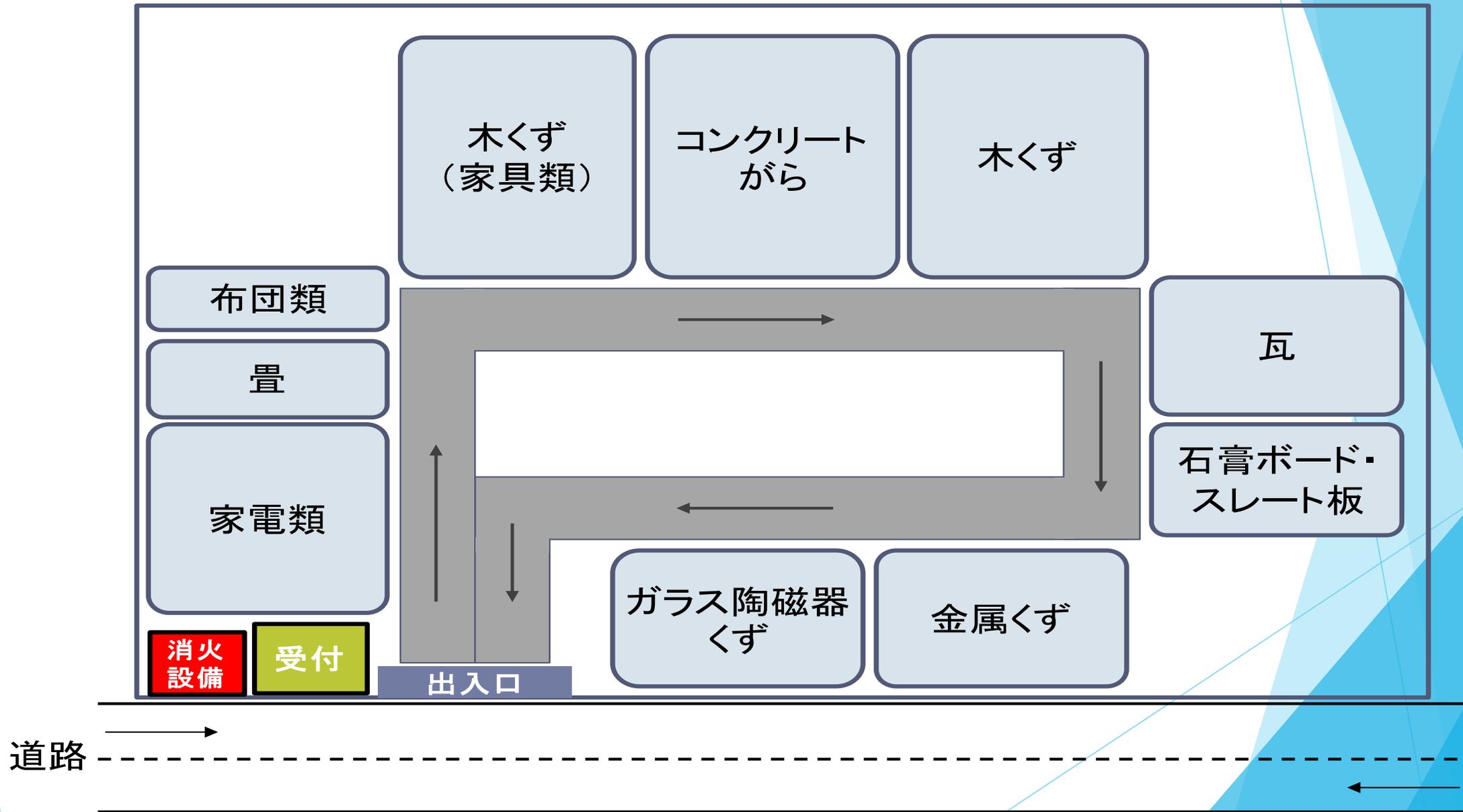
畳は積み上げ高さを2 m以下とする



作業員の配置

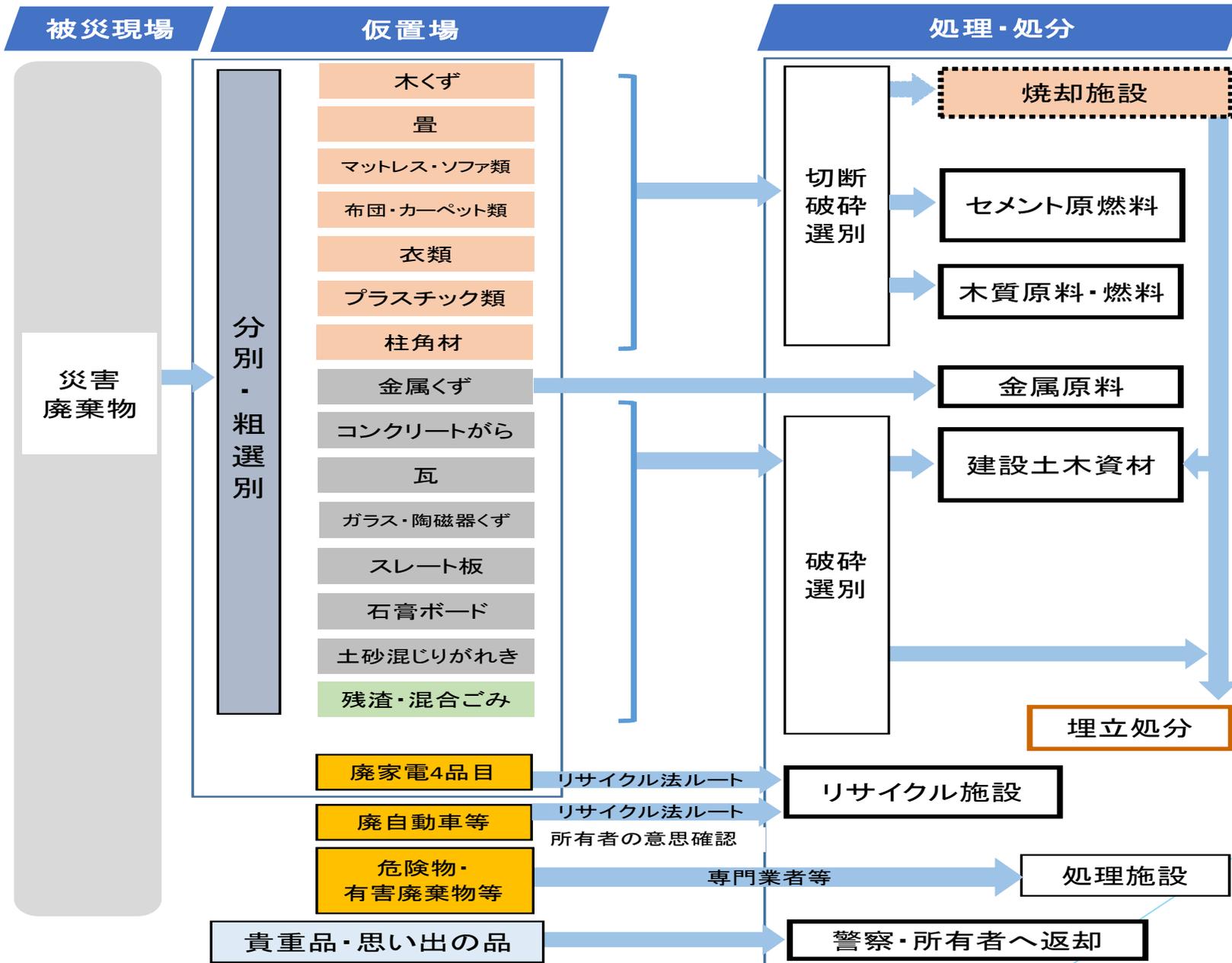
平成28年 熊本地震の仮置場

仮置場の分別配置の例（つづき）



10 災害廃棄物の処理ー7

災害廃棄物の種類別の処理方法



実際の処理現場（つづき）



仮設処理施設での木くずの破碎
(熊本県熊本市、平成29年7月)



仮設処理施設内の手選別工程
(宮城県岩沼市、平成25年2月)



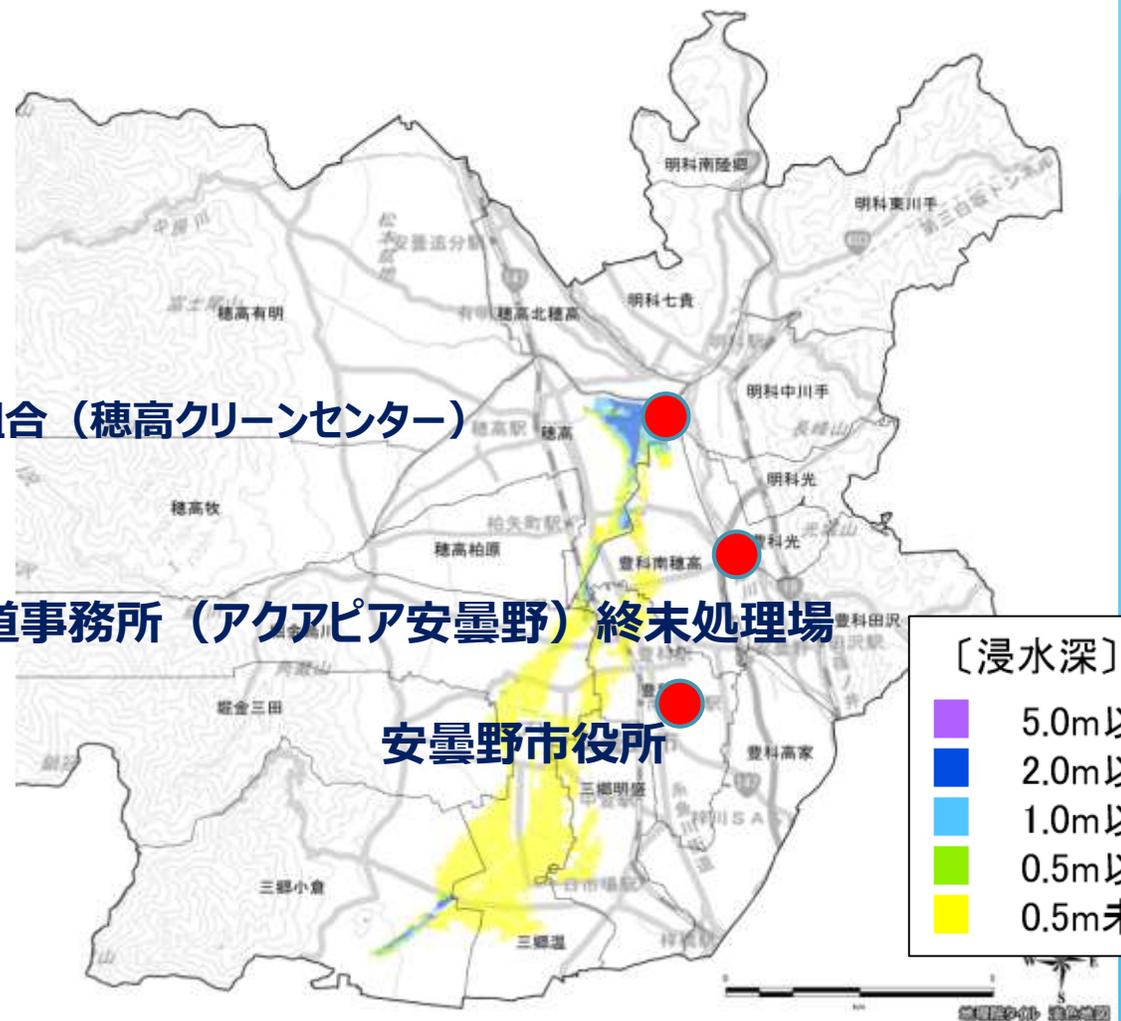
朝が好きになる街
安曇野



朝が好きになる街
安曇野



長野県洪水浸水想定 (穂高川)



長野県洪水浸水想定 (万水川、黒沢川)

〔浸水深〕

5.0m以上
2.0m以上5.0m未満
1.0m以上2.0m未満
0.5m以上1.0m未満
0.5m未満

※想定的前提となる降雨は、2日間の総雨量210mm

※想定的前提となる降雨は、万水川：最大時間雨量が30.1mm/hr、総雨量188.0mm
黒沢川：最大時間雨量が44.5mm/hr、総雨量155.1mm

※国土地理院の電子地形図に浸水域を追記して掲載

出典：長野県「信濃川水系穂高川浸水想定区域図」、「信濃川水系万水川浸水想定区域図」(平成20年6月)を加工して作成

10 災害廃棄物の処理ー8

(4) 避難所における仮設トイレのし尿発生量と仮設トイレの

必要基数の推計（糸魚川ー静岡構造線断層帯の地震（全体））

① 避難所避難者数（最大時：被災2日目）	12,330人
② 発生原単位（1人1日当たりのし尿排出量）	1.3L/人日
③ 仮設トイレのし尿発生量（①×②）	16,029L/日
④ 仮設トイレ必要基数（③÷60人）	206基



(5) し尿発生量と仮設トイレの必要基数の推計

(避難所外に避難している人と非水洗化人口を含む)

(糸魚川-静岡構造線断層帯の地震 (全体))

① 仮設トイレ必要人数 (最大時：被災1日目)	41,490人
② 非水洗化区域し尿収集人口	17,906人
③ 発生原単位 (1人1日当たりのし尿排出量)	1.3L/人日
④ し尿発生量 ((① + ②) × ③)	75,321L/日
⑤ 仮設トイレ必要基数 (④ ÷ 60人)	691基



(6) 災害規模ごとのし尿処理の対応方針

想定被害ケース	復旧期間	考 え 方
主に市内に被害が集中する中小規模の災害	1週間程度	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所における仮設トイレのし尿は、し尿処理・下水処理施設再開を待って搬出します。 ・下水道を使用していた家庭が下水道を使用できない場合、避難所の仮設トイレを下水処理場が復旧するまで使用します。 ・汲取りトイレについては、1週間程度回収を延期することで対応します。
主に市内に被害が集中する最大規模の災害	1ヶ月程度	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所からのし尿発生量は、市内業者の運搬能力余力を超過すると考えられ、市外の業者への支援を要請し、周辺地域の処理施設へ搬出します。 ・汲取りトイレについては、避難所への人口移動により、一時的に負荷が減少するため、施設の稼働再開まで、可能な限り貯留します。
安曇野市を含めた周辺の複数市町村にも多大な被害が発生する災害	1年程度	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所における仮設トイレ、浄化槽及び汲取りトイレについては市外の業者への支援を要請し、周辺地域の処理施設へ搬出します。 ・下水処理場では仮設的でも簡易処理が可能か検討し、し尿の受入れを可能な限り行います。

11 パブリックコメントの実施ー1

平成29年12月20日～平成30年1月19日まで施したパブリックコメントで出された意見と回答（一部要旨抜粋）



(1) し尿の処理について

し尿処理施設と大規模下水道処理施設は活断層上にあるため、これらの施設が大きな被害を受け長期に渡り使えない可能性がある。しかし、本処理計画案では明確な具体策が示されていない。

⇒**回答** 市下水道課及び犀川安曇野流域下水道事務所と調整し、迅速に処理を実施することとするが、災害の規模によって受入不可能な場合は早期復旧を目指す。併せて支援の範囲を近隣から遠方へと拡大していく。

(2) 想定浸水域について

概ね1,000年に1回程度の降雨とはどの程度の降雨なのか。降雨量も併記して頂かないと理解に苦しむ。その中で、建物被害棟数の推計だが、国土交通省及び長野県での浸水想定区域に示される浸水範囲内の全河川の棟数が、同一降雨、同一時間に浸水したと

11 パブリックコメントの実施-2 (つづき)

いう、つまり市内の全河川が一度に氾濫浸水したことを想定した被害棟数なのか。

⇒**回答** ご指摘のとおり降雨量を併記する。浸水想定域はあらゆる可能性を考慮して、建物の所在において最も深い浸水を想定して検討を実施している。そのため、国が管理する河川と県が管理する河川が全て氾濫した場合の浸水区域を重ね合わせ、浸水区域が重なる箇所については、重ね合わせた浸水深のうち、最も深い浸水深を用いて、建物ごとの被害区分を判定している。

(3) 波型スレートの有害性について

2004年以前に作られた波型スレートの多くはアスベスト含有されている。市内においても多数の施設・家屋・工場倉庫などで使われている。波型スレートは非飛散性だが、災害等で破損したものは曝露する可能性があるため有害廃棄物としての取り扱ったほうがよいのではないかと。

⇒**回答** コンクリート殻等「処理の考え方」欄に、石綿が含有されているおそれがあるスレート板は有害廃棄物として取り扱うことを明記した。



12 災害廃棄物対策の推進・計画の進捗管理－1

平常時から災害廃棄物処理に係る備えを進め、県・他市町村・事業者・市民の連携により災害廃棄物の円滑かつ迅速な処理を通じて早期の復旧復興につなげるとともに、環境負荷の低減、経済的な処理を実現します。



1 計画による実行力の向上

- ❖ 本計画を通じて庁内及び県、他市町村、事業者、市民とともに災害への備えの重要性を共有し、それぞれの行動につなげるよう働きかけます。
- ❖ 災害時の優先業務を検討・整理し、災害時の行動の強化を図ります。

2 情報共有と教育・訓練の実施

- ❖ これまでの災害廃棄物処理の経験を継承し、経験を生かしていくことで、今後の災害廃棄物処理に係る対応力の向上につなげます。

12 災害廃棄物対策の推進・計画の進捗管理-2(つづき)

❖ 県、他市町村、事業者等の関係者との情報共有・コミュニケーションを図り、連携を強化するとともに、目的に応じた効果的な教育・訓練を実施します。

❖ 災害廃棄物処理計画【概要版 A3見開 1ページ】を、「資源物・ごみ出し方の手引き」の改訂に合わせて各家庭に配布します。

(H31.3月発行予定)

3 進捗管理・評価による課題の抽出

❖ 災害廃棄物処理に備えた体制を構築していくため、県や事業者その他の関係機関・関係団体との連絡を密にします。教育・訓練履修者の数や仮置場候補地の選定等の進捗状況を毎年確認するとともに、県等と課題を共有し、評価・検討を通じて対応能力の向上を図ります。



12 災害廃棄物対策の推進・計画の進捗管理－3（つづき）

- ❖ 災害時の初動期から復旧・復興期までの行動を記録し、災害廃棄物処理における課題の抽出を行います。

4 計画の見直し

- ❖ 環境省の災害廃棄物対策指針の改定や、安曇野市地域防災計画における被害想定の見直し等を踏まえて本計画の見直しを行うことにより、計画の実効性を高めていきます。
- ❖ 災害廃棄物処理に関する市町村間の協定や事業者との協定等の内容及び実効性を確認し、必要に応じて見直しを行います。



ご清聴

ありがとうございました



長野県安曇野市 市民生活部廃棄物対策課